



システム科学への期待 統合防災システム構築を目指して



独立行政法人 防災科学技術研究所
藤原 広行

311東日本大震災の教訓

■ 東日本大震災は、典型的な広域複合災害

広域的な複合災害に対する危機管理の限界が露呈

全体を俯瞰して災害に対応する機能・能力の不足

■ 総合的な防災・減災対策の欠如

要素的な技術開発については、一定の成果（耐震技術等）

想定内の事象に対して最適化された要素技術の限界

■ 統合的な防災・減災システム構築の必要性

制度・組織改革による国・自治体の防災・減災機能の向上

要素技術開発にとどまらない、サービスとして運用可能な統合
防災・減災システムの構築の必要性

災害リスクに知で備える

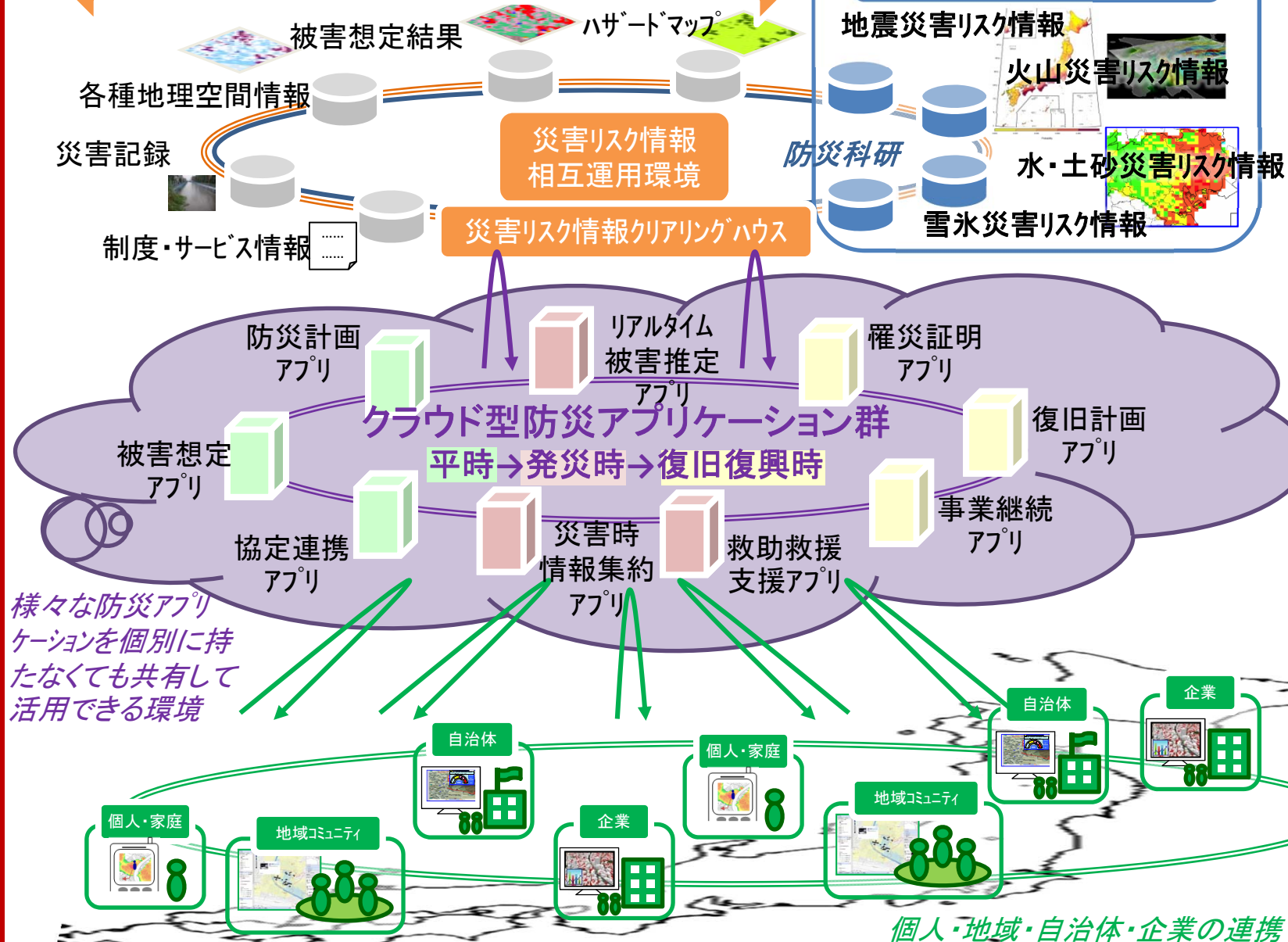
高潮・津波／地震／洪水・浸水／豪雪・雪崩／噴火／土砂崩れ・地すべり／etcの自然現象



災害に対する自らの「知」(地域特性、災害文化、等)
分散して存在する「専門知」や「経験知」を、個人や地域が自ら獲得・活用して、
「自分知・地域知」を高度化し、自ら「防災」を行ってゆく社会へ

防災・減災クラウドシステム構想

災害リスク情報の流通



個々のシステム構築なしに、平時・発災時・復旧復興時の対応をシームレスに実行可能な情報活用環境

システム科学への期待

- センサーネットワーク等から得られるデータの解析による付加価値の高い情報の創出
- 集中と分散のバランスを考慮した意思決定システムの設計に関するシステム科学的研究
- 社会システム改革と災害情報システムを同時に最適化する社会防災・減災システム設計
- サービスとしての運用に耐えうるシステム設計